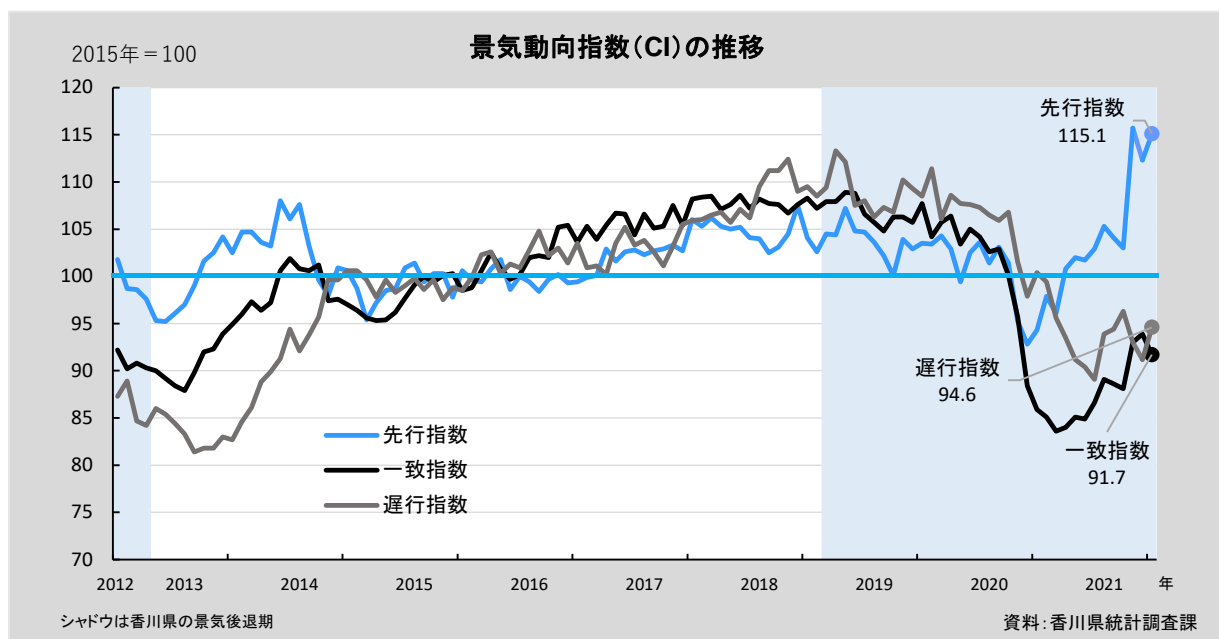


概況	景気は持ち直しつつあるが、感染再拡大の影響で一部では弱い動きとなっている。
個人消費	持ち直しの動きに足踏み感がみられる。
住宅投資	持ち直している。
公共投資	堅調に推移している。
生産活動	持ち直している。
雇用情勢	弱い動きとなっている。
貿易	輸出、輸入ともに増加している。
観光	弱い動きが続いている。

景気動向指数(かがわ CI) 一致指数 3カ月ぶり下降



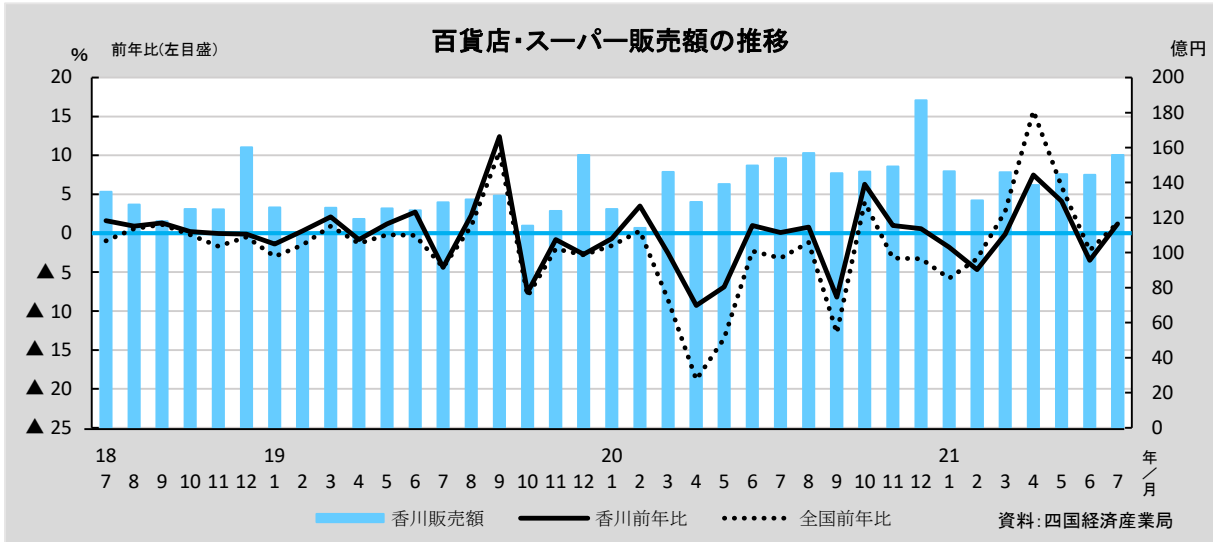
景気の現状をみると、6月のCI一致指数は91.7（前月比▲2.2ポイント）と3カ月ぶりに下降。CI先行指数は115.1（同+2.8ポイント）と2カ月ぶりに上昇。CI遅行指数は94.6（同+3.4ポイント）と3カ月ぶりに上昇。

景気の現状を示す一致系列の個別指標では、百貨店・スーパー既存店販売額、雇用保険受給者実人員、有効求人倍率等が下降に寄与したことにより、前月から2.2ポイントの下降となった。

先行系列		寄与度	一致系列		寄与度	遅行系列		寄与度
採用 景気 指標	1 新規求人数	▲ 0.58	1 雇用保険受給者実人員	▲ 1.14	1 常用雇用指数	▲ 0.44		
	2 乗用車新車登録台数	0.07	2 有効求人倍率	▲ 0.16	2 有効求職者数	1.36		
	3 鉱工業在庫率指数	0.19	3 所定外労働時間指数	▲ 0.13	3 消費者物価指数	0.35		
	4 生産財生産指数	0.24	4 鉱工業生産指数	0.16	4 家計消費支出	▲ 0.62		
	5 新設住宅着工戸数	0.94	5 鉱工業出荷指数	▲ 0.11	5 鉱工業在庫指数	▲ 0.03		
	6 金融機関貸出残高	0.04	6 建築着工床面積	0.46	6 法人事業税調定額	1.85		
	7 消費者態度指数	1.98	7 百貨店・スーパー既存店販売額	▲ 1.23	7 第3次産業活動指数	1.07		

●百貨店・スーパー販売額

2カ月ぶり増加 ↑



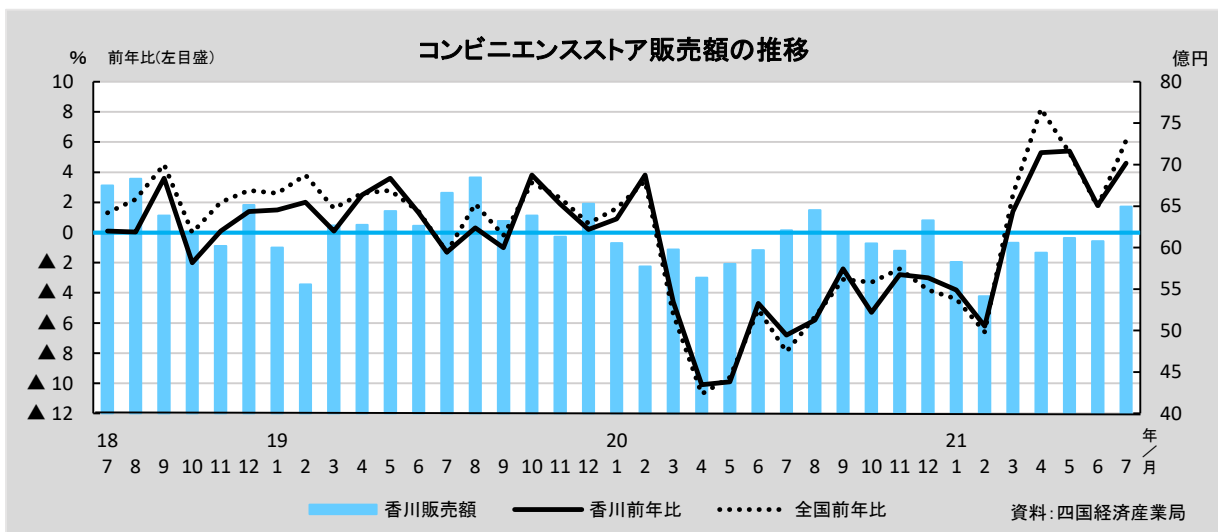
2021/7月	衣料品	身の回り品	飲食料品	家具	家庭用 電気機械器具	家庭用品	その他の商品	食堂・喫茶	合計
販売額(万円)	103,648	59,566	1,135,926	1,927	7,992	27,565	220,076	561	1,557,261
前年同月比(%)	2.6	▲11.9	1.3	▲11.0	6.8	▲73.5	63.3	▲10.7	1.2

7月の百貨店・スーパー全店(84店)の販売額は、155.7億円で前年同月比+1.2%と2カ月ぶりに増加した。「飲食料品」は内食傾向が続き、生鮮食品や冷凍食品が堅調で同+1.3%。「衣料品」は同+2.6%、「その他の商品」は同+63.3%と前年を上回った。

一方、「身の回り品」は同▲11.9%となった。

●コンビニエンスストア販売額

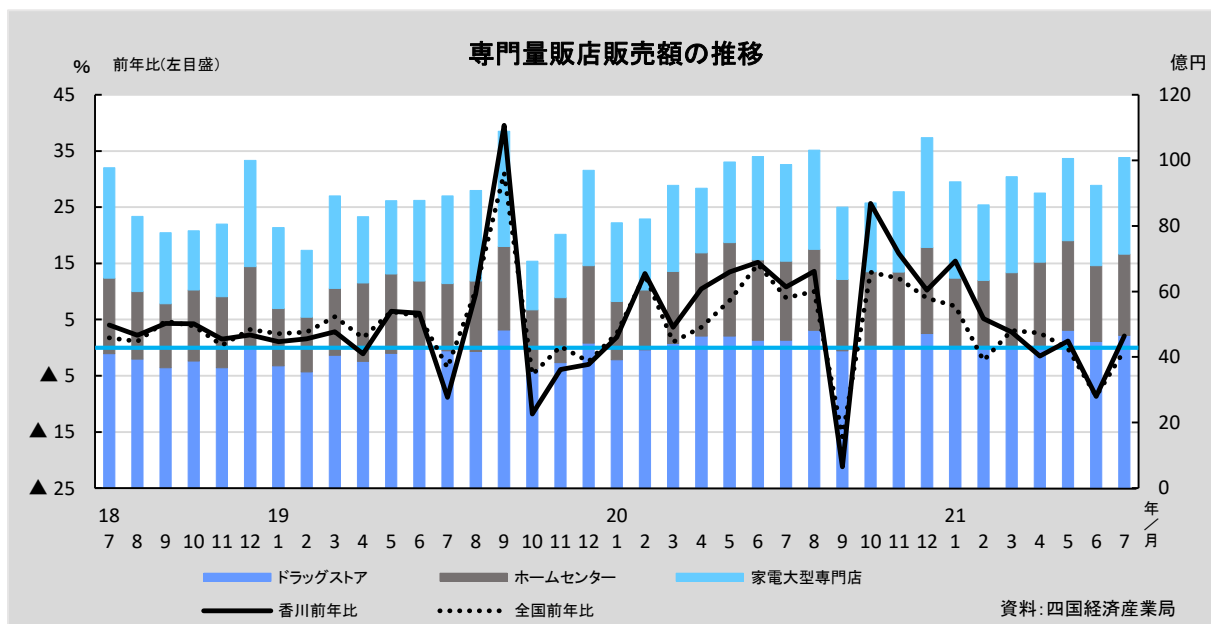
5カ月連続増加 ↑



7月のコンビニエンスストア全店(408店)の販売額は65.0億円で、前年同月比+4.6%となった。フライヤー・おにぎり・冷凍食品などが好調に推移し5カ月連続の増加となった。

● 専門量販店販売額

2 カ月ぶり増加

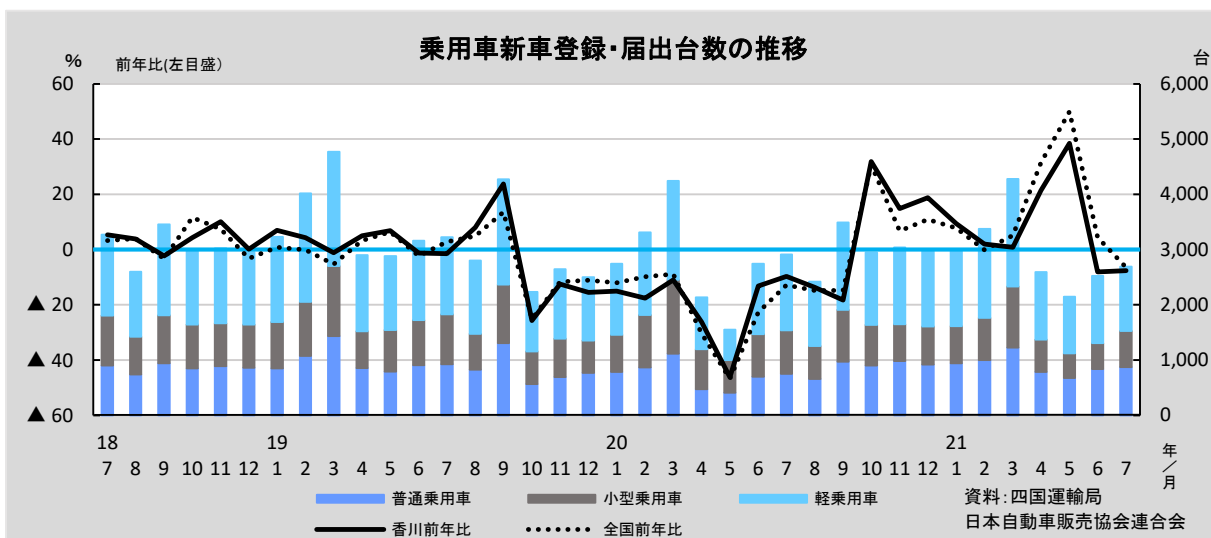


7月の専門量販店全店（203店）の販売額は100.9億円で、前年同月比+2.1%と2カ月ぶりに増加した。

業態別にみると、テレワークによるパソコン需要で伸長した前年の反動減がみられ、**家電大型専門店**（29店）の販売額は、29.5億円で前年同月比▲0.1%となった。**ドラッグストア**（129店）の販売額は、内食傾向が続き冷凍食品やアルコール飲料などの飲食料品が好調なため、46.6億円で同+3.4%。**ホームセンター**（45店）は前年の反動減がみられるものの、引き続き園芸用品などが堅調で、販売額は24.7億円で同+2.4%となった。

● 乗用車新車販売台数

2 カ月連続減少

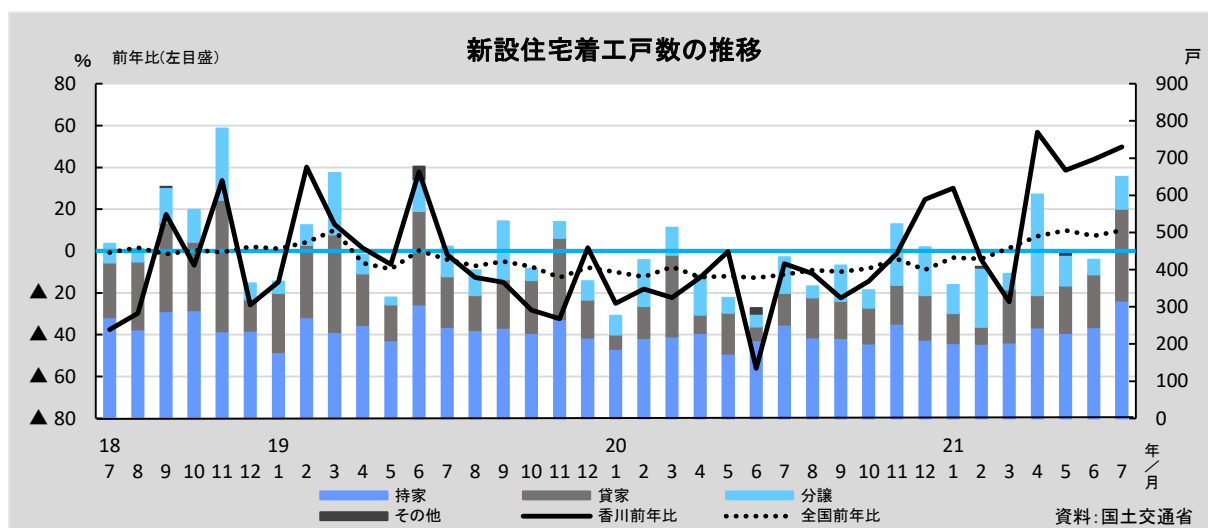


7月の乗用車（普通・小型・軽）新車販売台数は2,690台で、世界的な半導体不足による生産停滞が続いており、前年同月比▲7.6%と2カ月連続で減少した。

車種別にみると、普通乗用車で前年同月比+16.0%、小型乗用車で同▲17.0%、軽乗用車で同▲15.1%となった。

●新設住宅着工

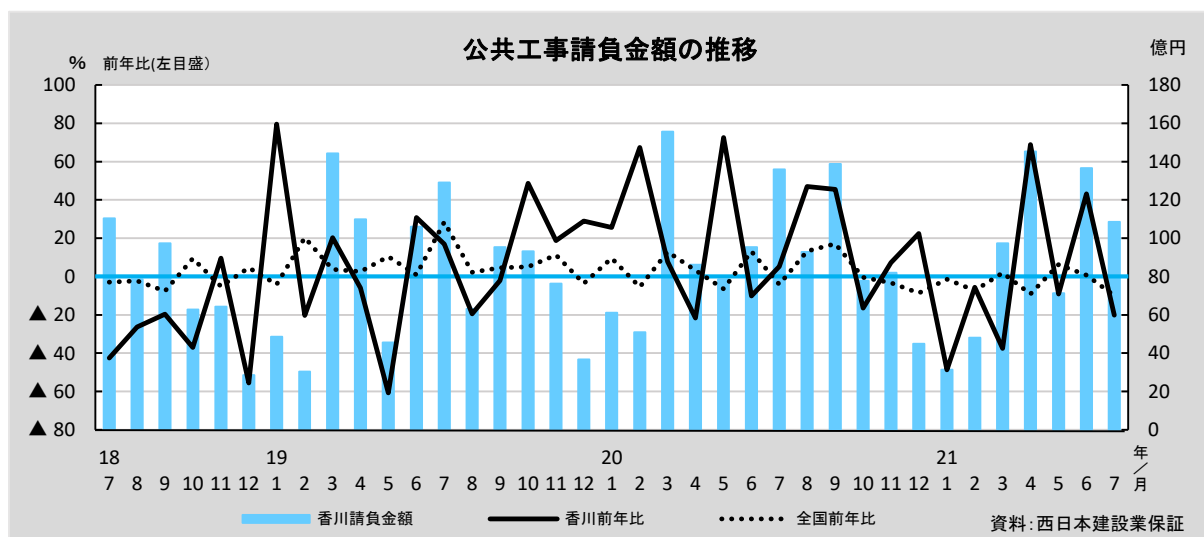
4カ月連続増加 ↑



7月の新設住宅着工戸数は650戸で、前年同月比+49.8%と、4カ月連続で増加した。利用関係別にみると、**持家**で前年同月比+25.8%、**貸家**で同+190.6%、**分譲住宅**で同▲11.3%となった。

●公共工事請負金額

2カ月ぶり減少 ↓

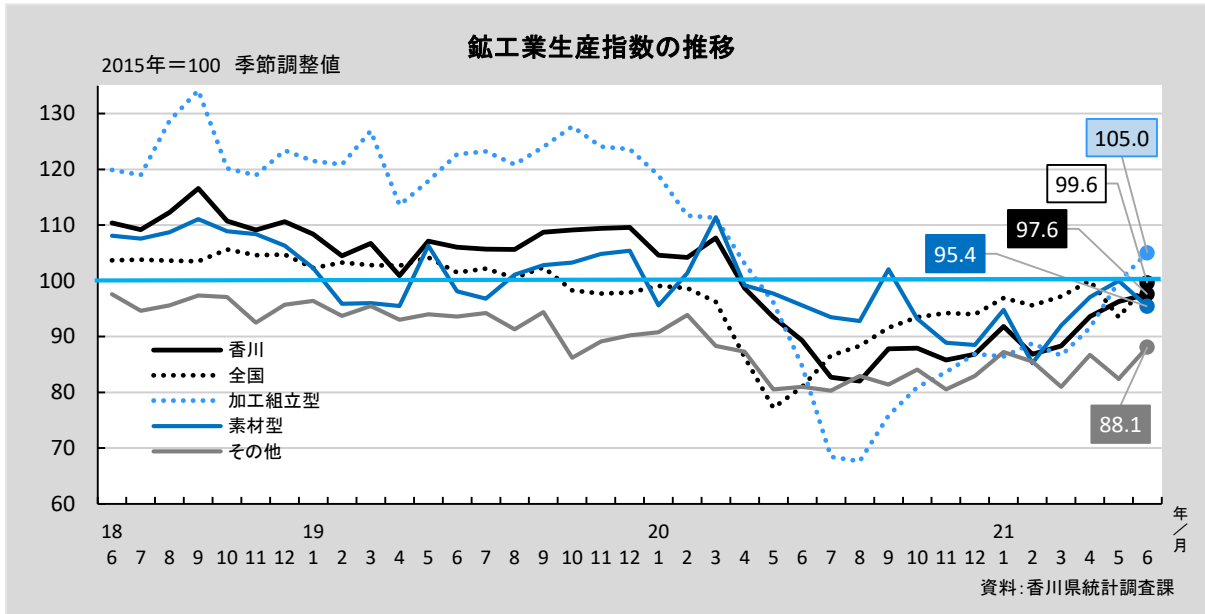


7月の公共工事請負金額は108.6億円で、前年同月比▲20.1%と2カ月ぶりに減少した。発注者別にみると、**国・独立行政法人等**で前年同月比▲11.4%、**県**で同▲33.4%、**市町**で同▲4.0%となった。

4～7月の累計では前年同期比16.6%増加している。

● 鉱工業生産指数

4 カ月連続上昇 ↑

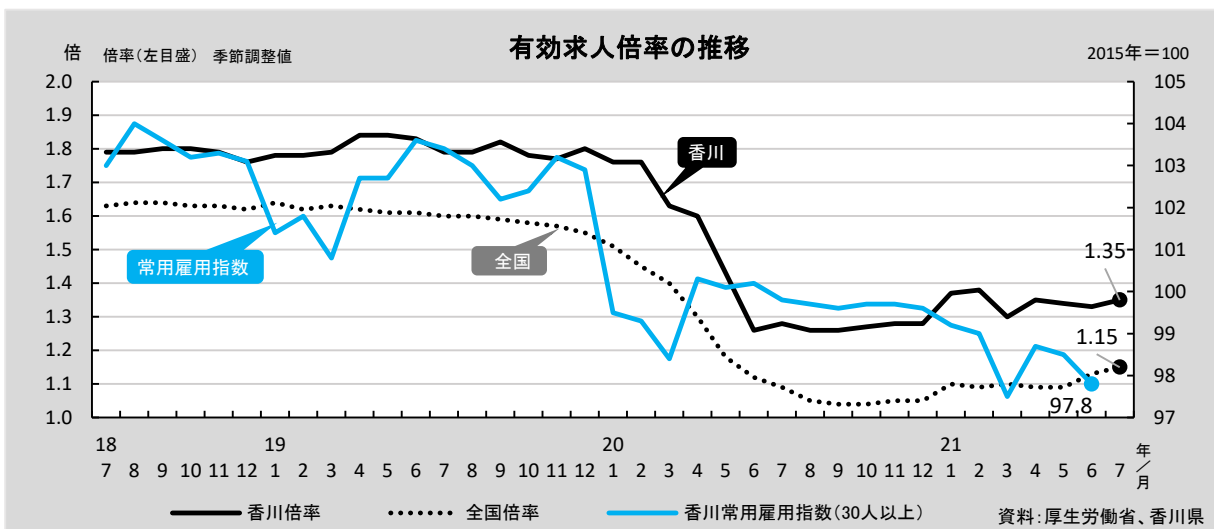


6月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は97.6（前月96.3）となり、4カ月連続で上昇した。

業種別では、その他業種の食料品工業（食用油など）は前月比+12.3%、加工組立型の汎用・生産用機械工業（ころ軸受など）は同+8.8%と上昇した。一方、素材型の化学・石油石炭製品工業（医薬品・塩など）は同▲6.7%と低下した。

● 有効求人倍率

3 カ月ぶり増加 ↑



7月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.35倍（全国16位）と前月より0.02ポイント上昇した。

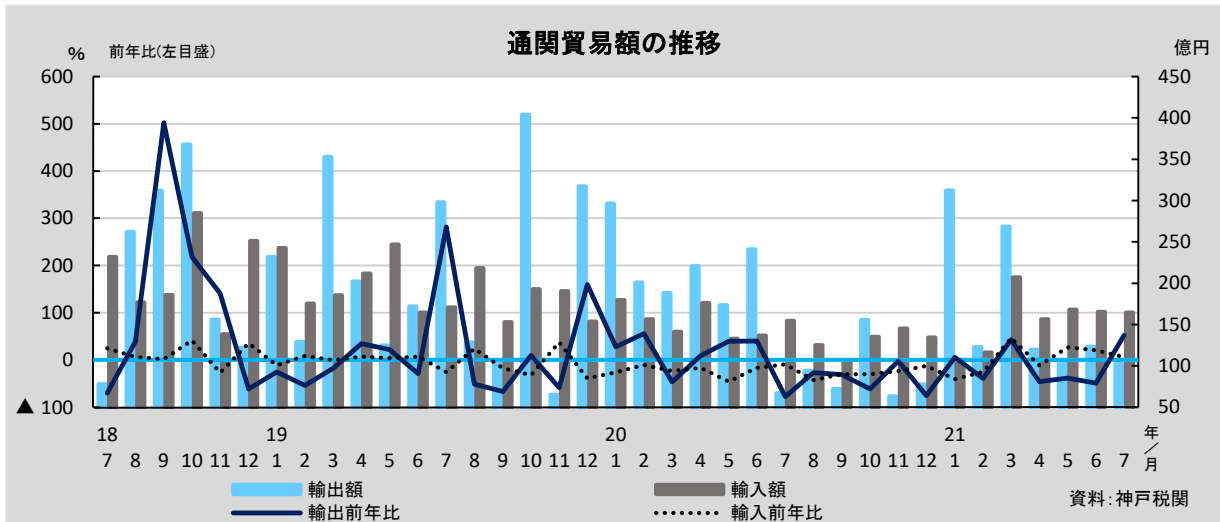
新規求人（原数値：前年同月比）は、医療・福祉、サービス業、学術研究・専門技術サービス業等で増加し、全体で+3.2%と4カ月連続で増加した。

6月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、97.8となり、前年同月比は23カ月連続で低下した。

職業別常用有効求人倍率	倍
専門・技術的職業	1.91
事務的職業	0.49
販売の職業	2.07
サービスの職業	2.93
生産工程の職業	1.97
輸送・機械運転の職業	2.07
建設・採掘の職業	6.03
運搬・清掃・包装等の職業	0.95

貿易

輸出、輸入ともに増加している



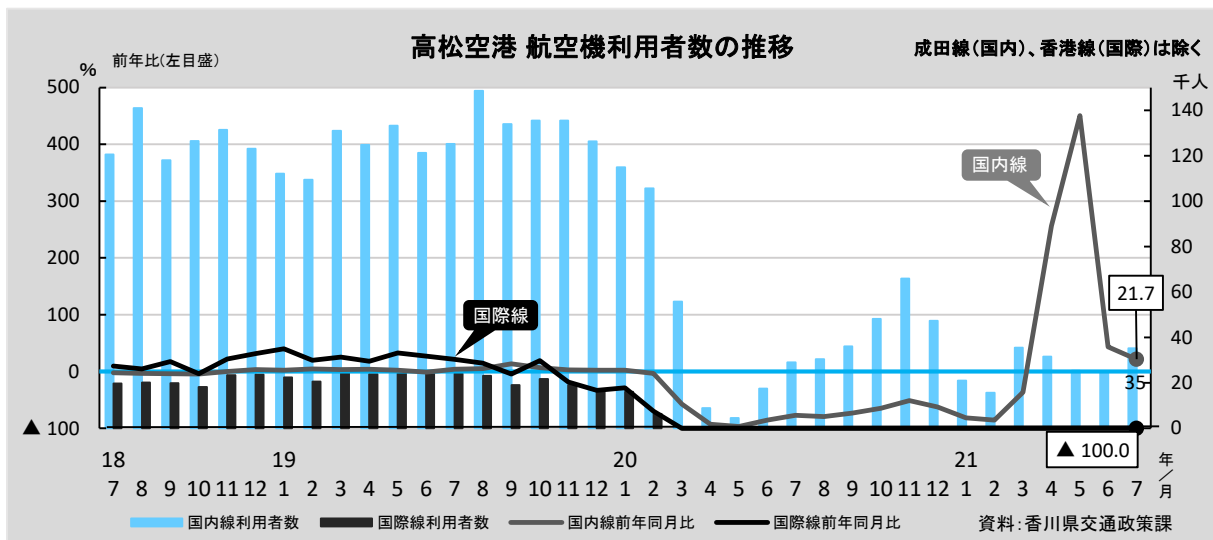
7月の輸出額は前年同月比+52.1%の102.1億円、輸入額は同+6.6%の164.4億円となり、差し引き62.3億円の入超となっている。

輸出は、前年にゼロだった貨物船輸出額が34億円となった。輸入は、液化天然ガス輸入額が同+64.8%の33億円となった。

交通

国内線は4カ月連続増加、国際線は17カ月連続全面運休

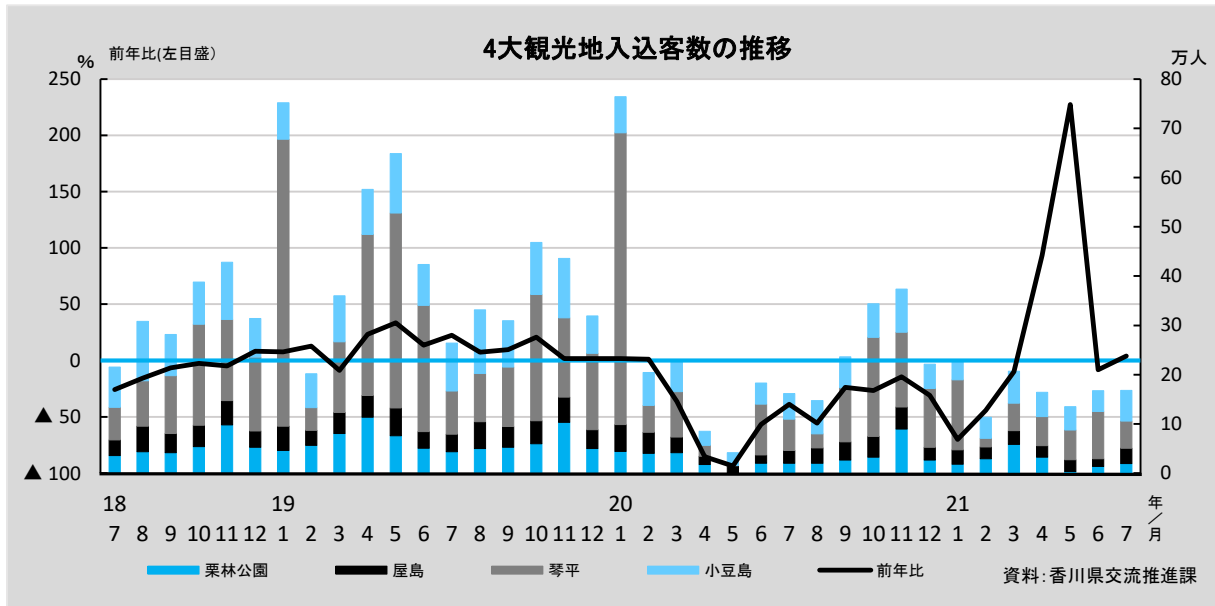
●高松空港旅客輸送実績



7月の航空機利用者数は、国内線(羽田・那覇線)が35,305人(前年同月比+21.7%)となり、4カ月連続で増加した。羽田線は35,193人(前年同月比+25.3%)、那覇線は112人(同▲87.9%)となった。ただし、コロナ禍以前の2019年同月比は▲71.8%となった。

国際線(ソウル・上海・台北線)は新型コロナウイルスの影響により17カ月連続の全面運休となった。

●主要観光地入込客数

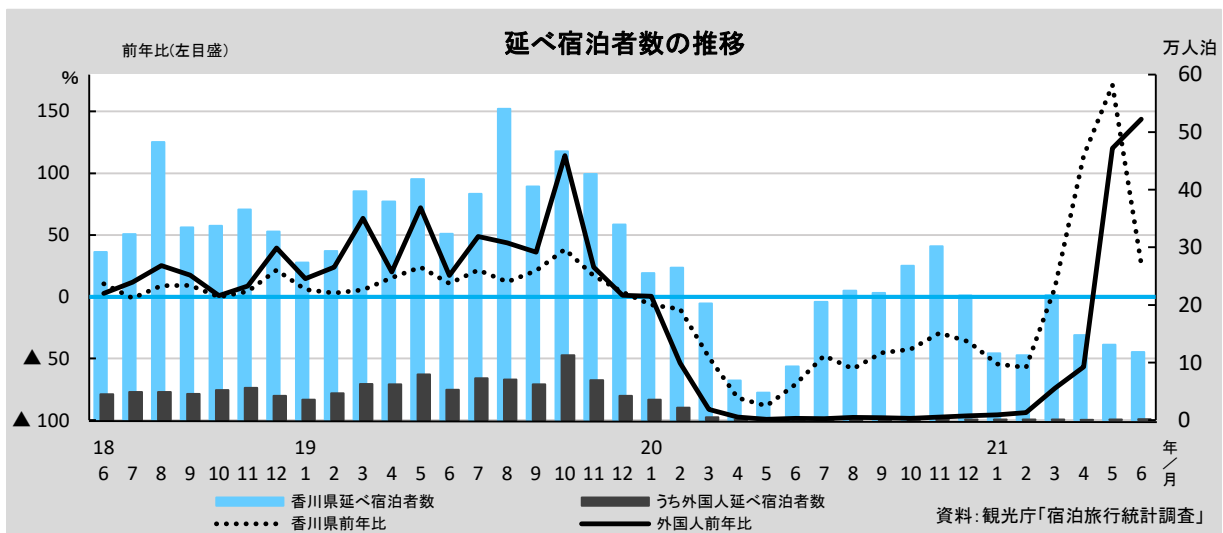


観光地入込客数		栗林公園	屋島	琴平	小豆島	合計
7月(人)	前年同月比	19,554 ▲3.0%	31,209 19.0%	55,000 ▲12.7%	62,146 19.5%	167,909 4.0%
1~7月累計(人)		174,514 ▲5.4%	175,665 ▲13.7%	486,000 ▲47.6%	349,242 ▲1.2%	1,185,421 ▲28.9%

7月の主要観光地の入込客数は、前年同月比+4.0%と2カ月ぶりに増加した。コロナ禍以前の2019年7月比では▲36.4%となり、6月比の▲60.4%からは改善している。

1~7月の累計では前年比▲28.9%となった。

●延べ宿泊者数



6月の延べ宿泊者数は118,380人で、前年同月比+26.5%と4カ月連続で増加したものの、コロナ禍以前の2019年同月比では▲63.4%となった。

うち、外国人延べ宿泊者数は2,120人となり、前年同月比+143.7%と2カ月連続で増加した。2019年同月比では▲96.0%となった。